OTEMON GAKUIN UNIVERSITY

学院志研究室 News Letter 第15号

News Letter of Research Center for the History of Otemon Gakuin

OTEMON HISTORY SINCE 1888 追手門学院 デジタルアーカイブ

目次

デジタルアーカイブのアクセス状況 … 2
活動報告 …… 3
博物館実習 …… 4
SJレポート …… 6
活動日誌 …… 7
2022年度室員・調査員 …… 8

デジタルアーカイブのアクセス状況

前号でお伝えしましたとおり、2021年12月に「追手門学院デジタルアーカイブ」を学院志研究室のホームページ上に開設いたしました。公開から約1年が経ち、広報課によるご協力のもとGoogle Analyticsからデータを抽出し、そのアクセス状況をご紹介いたします。

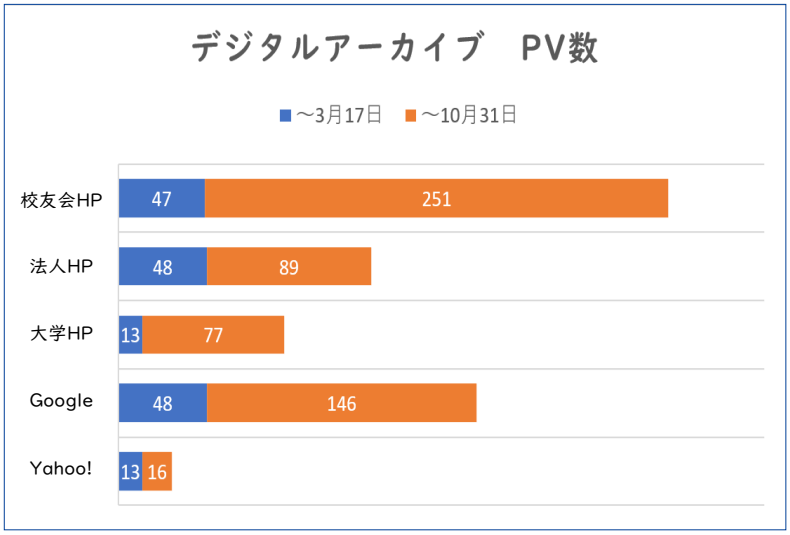
「追手門学院デジタルアーカイブ」のページビュー数（PV数）は、2022年10月31日時点で**1.466pv**ありました。PV数とは「追手門学院デジタルアーカイブ」のページにどれほどのユーザーが訪れたかをあらわす数値です。2022年3月17日時点は329pvでしたので、着実にその数を増やしているといえるでしょう。

下表は、ユーザーの訪問元となった外部サイトや検索エンジンごとにPV数を積み上げたものです。「追手門学院デジタルアーカイブ」へは 追手門学院大学校友会の公式ホームページ からもっとも多くのアクセスをいただいていることがわかります。懐かしい写真や映像を卒業生の方々に見ていただける機会がつくれたことも、「追手門学院デジタルアーカイブ」の成果のひとつと思います。

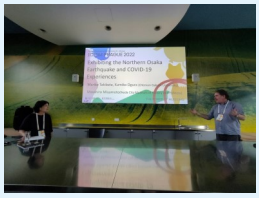
つぎにPV数が多かったのは、学校法人 追手門学院の公式ホームページ です。校友会も法人もどちらもサイトのトップページに「追手門学院デジタルアーカイブ」へのリンクを貼っていただいているという共通点があり、それがPV数の伸びに繋がっていると考えられます。

検索エンジンとしては、Googleからのアクセスが最多でした。不特定の方々からも広く閲覧いただいていることがわかります。

「追手門学院デジタルアーカイブ」は今後も更新を続けていきます。アクセスをしたことがない人も一度は見たことがある人も、定期的にご覧いただければ幸いです。　　（文責・小倉）



ICOM PRAGUE 2022 ICTOP



メイン会場　プラハ・コングレスセンター　　発表会場　国立農業博物館

発　表　日　2022年 8月 25日（木）

発表テーマ　Exhibiting the Northern Osaka Earthquake and COVID-19 Experiences

発　表　者　Mariko Takibata, Kumiko Ogura (Otemon Gakuin University)
Masahiro Miyamoto(Ikeda City Museum of History and Folklore)

本発表は、本学で博物館実習をご担当いただいている非常勤講師の宮元正博先生と、学院志研究室の小倉久美子さんとの共同発表で、瀧端が代表でプラハ大会の現地で口頭発表しました。本学での博物館実習で行った展示制作についての報告で、2019年度は大阪北部地震、2020年度はコロナウィルス感染症をテーマに展示を作成したため、自然災害や感染症流行の中でどのように人材養成を行うかを論じました。博物館の強さは専門家だけでなく、物理的な資料を提供する人々や、体験を語る／記録する人々によって支えられており、自然災害の多い日本ではこの実習によって、将来の博物館の専門家が地域の人々とつながり、地域の課題に取り組むことに役立ち、また、地域住民としても博物館を支えることができるようになると結論しました。

ICOM（国際博物館会議）は世界最大で唯一の、博物館専門職が集う非政府組織で、4万人以上の会員がいます。分野別に32の国際委員会がありICTOP(人材養成)もその一つです。　（瀧端）

大阪経済大学創立90周年記念展示会の見学

会　　場　70周年記念館のKEIDAIギャラリー

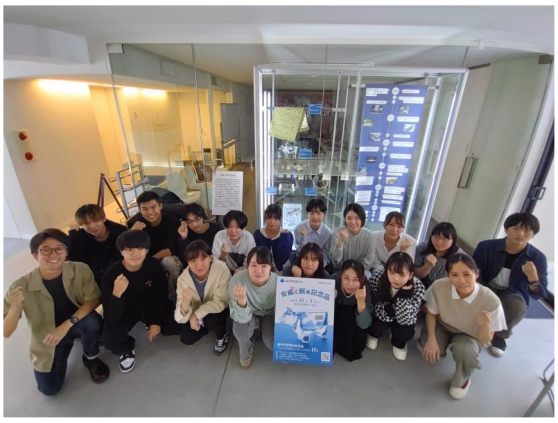
日 に ち　2022年 9月 29日（木）

見 学 者　浜田瑞穂、小倉久美子

展示会場の入口には、90周年のロゴマークとマスコットキャラクターはてにゃんのフォトスポットがあり、中央には、年表が描かれた円柱型のオブジェ、四方に展示品が飾られていました。大阪経済大学開学記念講演会のポスターや同窓会誌、要覧、学友会誌、制帽、学生証、定期券、学徒勤労報国隊の腕章など貴重な資料を拝見させていただきました。展示品の中で一番大きな顔写真が、初代学長の黒正巌博士です。年表を読んでいると、昭和初期から戦中戦後の混乱期に、学校存続のためご苦労されていることが分かります。追手門学院と同じく、多くの学校関係者が私財を投じて学校を守ってきたことに感銘いたしました。

そして、会場の奥には、100周年ビジョン「DAIKEI 2032」と卒業生・在学生・教職員からの100周年に向けてのメッセージカードが、満開の桜の絵を背景に掲示されていました。90周年のロゴマークをよく見ると、影が“100”の文字になっています。100周年に向けての大阪経済大学の意気込みが感じられる展示会でした。　（浜田）

博物館実習



2022年度春学期、学院志研究室では今年も博物館実習を受け入れ、9月20日～22日に展示実習を、28日に資料整理実習を行いました。今年は実習生19名という大所帯で、例年とは違った苦労もみられましたが、最終的には将軍山会館地下1階に展示を完成させ、ポスター・チラシの作成も行うことができました。

実習生による体験記をご紹介します。

将軍山会館の展示実習では、学芸員が行っていることを実際に肌で感じることができ、想像以上に作業が大変でした。特に実習生の人数が多いこともあり、意思疎通があまりできなく、チームワークがまとまらない時もありましたが、最終的にはチームのみんなで協力し、得意なところ、苦手なところをそれぞれを分かち合い、１つの展示を完成させることができたのがとても感動的でした。今回、実習を通して学芸員には喜びや感動があり、展示をみてもらう嬉しさもあることに気がつくことができました。（心理学部　３回生　眞鍋 紹騏）

想像以上に学院志研究室にはいろいろなものが保存されていて、目録を見るだけでわからないものや、実際に見てみると面白いものがあって、展示物を探すだけで楽しかったです。（心理学部　３回生　堀地 恭子）

展示実習では19人全員の意見をまとめ、１つの展示にまとめることに苦労しました。資料１つとっても、調書、キャプションの作成など様々な過程を経て、人々の目に触れることを実際に体験し、資料の保存の大切さについて学ぶことができました。（国際教養学部　３回生　中村 光）

将軍山会館での展示実習を通して、来館者に展示を見せるまでの苦労や面白さを学ぶことができました。苦労したのは展示物を決める場面とテーマについて考えることです。実習生の意見があまり揃わなかったことで、意見をまとめるのに時間がかかってしまいました。一方で、面白いと感じたのはチラシとポスターの作成です。これらの作成においては私から立候補した仕事でもあり、積極的に作業することができました。私はチラシやポスターを作成してみたいと前々から考えており、印刷業者に発注するところまで携わることができたことに喜びを感じました。今回の実習をこれからの生活でも活かしていきたいと思います。（地域創造学部　３回生　平山 陸）

展示内容について全員で試行錯誤したことは新鮮な経験でした。途中で苦労したところも努力が無駄になったことも幾つかありましたが、振り返るといい経験だったな、と思います。（社会学部　３回生　勝木 匠）

自分たちで一から考えて完成した展示をみると「やってよかったな」と感慨深いものがあります。途中少し揉めることもありましたが（多分）、自分が考えていることを皆さんに提示することで、自分の意見をそのまま通すよりも皆さんの意見も含めたものの方がより良いものが出来上がったので、意見を出し合い、みんなで噛み砕いていって最善のものをつくるこの実習は、自分にとってとても良い経験になりました！（心理学部　３回生　永木 里奈）

実習を通して、今まで何気なく見ていた展示の難しさや大変さを学び、他の実習生ともだんだん皆馴染んできて協力して作業をすることができました。難しい作業が多かったですが良い経験になり良かったです。（地域創造学部　３回生　上田 陽翔）

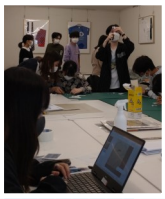
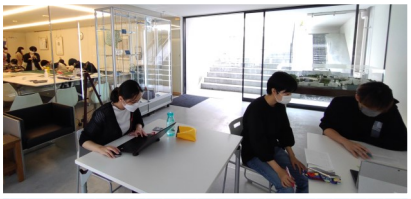
みてもらう人の立場に立って展示の内容や見せ方を考え、どうすればみてもらえるか伝わるか面白いと思ってもらえるかを考えることを学びました。（経済学部　４回生　仲 彩華）

今までは企画展でただみているだけだった展示を、自分たちで企画準備からすることや、歴代の追手門学院大学の記念品を実際に扱える経験は貴重でした。博物館実習に参加して学ぶことが多く、今後に活かしていきたいです。　（国際教養学部　３回生　加村 晴乃）

将軍山会館の展示実習では意見がぶつかることもありましたが、最終的にはまとまって、展示を完成させることが出来ました。最初は期限内に終わるのかなと心配に思いましたが、みんなで協力して楽しく展示を作ることが出来てよかったです。（心理学部　３回生　佐伯 彩純）

将軍山会館の展示実習を通じて、チームプレイの重要性を痛感しました。一人では展示内容を制作することは絶対に出来ないので、チームプレイをすることはとても大切なことだと改めて学ぶことが出来ました。　（経営学部　４回生　木村 琉雅）

学院志研究室の資料目録を作成するとき、後で目にする人が検索することを念頭に、分かりやすいように資料に書いてあるメモを書き写すことが必要だということを知りました。（心理学部　３回生　岸本奈々代）

一人では思いつかないことでも、多くの人が集まると、様々なアイデアが出てくるように感じました。展示実習や学院志研究室の活動を通して、細かい作業が多く、そのような作業が重要であることがわかりました。　（心理学部　３回生　河野 真奈）

展示実習全体を通して苦労も多くありました。とくに企画の立案や展示品の選択、キャプションの作成が非常に難しかったです。学院志研究室の活動は、地道な作業が最も重要なのだと学びました。　（心理学部　３回生　佐方 知尋）

想像していたものが、現物になってみるとイメージと異なることを学びました。私たちの班では、パソコンでパネルデザインを作成しましたが、印刷物のサイズや色味、キャラクターの配置など最後まで試行錯誤をしました。　（国際教養学部　３回生　川畑 愛莉）

普段は触れることのできない資料を扱うことができて、とても貴重な経験になりました。
１つの企画展をつくるのがどれほど大変なのかを実感できました。（社会学部　３回生　内田 優衣）

将来、どこかでだれかが資料を求めることがあることを念頭に、資料を綺麗に丁寧に扱うこと、文字も同様に書くことが、今を生きる世代に求められていることであり、過去と未来を繋ぐ行為であることを認識させられました。　（社会学部　４回生　猪池 文唯）

展示実習を通して、多くの人と１つのものを作ることの大変さを学びました。また、学院志研究室の活動に触れて、日々の細かな作業で様々なものを蓄積していくことが、歴史を未来へ繋げていくことになると感じました。　（国際教養学部　３回生　中尾英莉奈）

SJレポート

2021年10月～2022年1月

対面とリモートと両方で取り組みました。対面では質問がしやすく、作業内容などを丁寧に指導してくださりました。動く作業も多かったため、資料運搬や整理なども行いました。普段なかなか入れない場所で働いたり、事務の方と会う機会があったり、貴重な経験をたくさんさせていただきました。

リモートではパソコン入力を時間内に行うことが中心で、それぞれで違った大変さと楽しさを体感しました。授業やほかのアルバイト、就活などと並行して行うことに大変さを感じる事がありましたが、パソコンの機能など、SJを通して得た知識はSJ以外の場面でもとても役に立っていて、自信にもつながりました。集中して一つのことを行うことも、人と協力して作業することも好きなので、黙々と入力する作業や、小倉さんと一緒に資料整理などの共同作業をする場面も楽しく取り組めました。

他のアルバイトとはまた違った経験や知識を得られるので、特殊さも感じつつ短時間でかなり充実できました。今期もたくさんお世話になりました。ありがとうございました。　（社会学部 3回生　斉藤 彩花）

私は今年度、博物館実習の授業を履修していました。その中でもう少し将軍山会館での業務に触れたいと思い、SJに参加しました。SJを通して、ここまで様々なことを経験させてもらいました。その中で学んだことが2つあります。

1つ目は、資料整理を通して学んだことです。大学に残る資料だけでなく、追手門学院の小中高における様々な資料があります。それらの中には、貴重な資料なのにファイリング用の穴があけられてしまっていたり、そもそも年号が間違っていたり、途中でサイズや形が変わっているものもあり、ただ順番に整理するだけでも大変な作業でした。穴1つのズレでも、まとめるのにはかなりの壁になるため、自分的にはいらないと思う資料でも、将来のために綺麗に保存しておくことの重要さを学びました。

2つ目は、あるもの、ある知識を活かす工夫です。例えば授業で習ったノリパネの知識で、ツリーのてっぺんの星や壊れていたテッシュの箱を新しく作りました。また、本棚整理の際にも、今あるものだけでどう見やすくするのかを常に考え、あまりきれいで多くある本を台に使うなど様々な工夫を行いました。

4ヶ月で週に1回という短い期間でしたが、楽しく学ばせていただきました。この経験や知識がまたどこかで活かせると思うと、面白いなと感じます。　（経営学部 3回生　澤頭 千春）

春学期から行っていた博物館実習を通じて、学院志研究室の存在を知り、SJの活動を始めるに至りました。
最も時間をかけた仕事は、学部紹介パネルの作成で、実習にて学んだPowerPointを応用しました。見やすいフォントやサイズ、カラーの明度などを考えながら、デザインを行う点はとても楽しかったです。また、元データの文章の書き方やレイアウトが学部により異なるため、工夫してまとまりのある説明文を作る点は苦労しました。

また、11月には将軍山会館にて、クリスマスツリーの飾り付けを行いました。どこから見てもバランスの良いツリーにすることは、意外と難しかったですが、綺麗に飾り付けることができ良かったです。

ほかにも、資料や目録の整理・入力などのパソコンを使用した事務仕事を経験できたことは、今後の就活の糧になると感じました。

また、将軍山会館にて、ティッシュケースの作成も行いました。頼まれたものではありませんでしたが、自分たちで考えて行動したことが、喜んでもらえたことで、やりがいにも繋がり、自発的な行動の大切さを学ぶきっかけになりました。

4ヶ月で週に1回という短い期間でしたが、アルバイトや普段の生活では、経験することの出来ない様々な業務を行うことができ、とても貴重な時間となったと心から思います。　（経営学部 3回生　山崎 日陽）

2022年4月～6月

3年目のSJ半期をつとめました。これまでの業務もそうでしたが、PC作業や資料整理だけでなく、力仕事や慎重に扱わないといけないモノなど、さまざまな業務を経験でき、楽しかったです。「事務作業」と一言にいっても、普段触れられないモノや環境に囲まれて、働きながら学ぶ機会が多かったです。後期も機会があればまた継続して最後まで務めたいです。
（社会学部 4回生　斉藤 彩花）

活動日誌

（2021年12月～2022年10月）

2021年

12月 9日	「追手門学院デジタルアーカイブ」を公開
9日	飯田氏（小学校103期、大手前中・高46期）より資料寄贈
20日	学院志研究室News Letter第14号を発行

2022年

1月 7日	放送映画製作所にて資料調査
2月24日	将軍山会館の裏山側溝を清掃
3月27日	校友会がハイキングで将軍山会館を見学
4月 1日	将軍山会館の常設展示を一部展示替え
12日	三ツ柳氏（大学1期）とご友人が将軍山会館を見学
14日	SJの学生2名が資料室で資料整理業務を開始
20日	SJの学生1名が資料室で資料整理業務を開始（6月1日まで）
5月28日	校友会結成50周年記念式典（於、リーガロイヤルホテル大阪）で 展示のため、大学制服や卒業アルバムを貸出
6月 4日	教育後援会が総会後に将軍山会館を見学
23日	2022年度第1回室員会議（ハイブリッド型）
	北山氏（大手前中・高29期、大学16期、山桜会役員）が
7月15日	将軍山会館で追大サブチャンネルを撮影 （9月2日配信）
9月5日	将軍山会館中庭を高圧洗浄機で清掃（8日まで）
27日	将軍山会館のピアノ調律
29日	ハワイ大学・カピオラニ・コミュニティ・カレッジの パゴット学長、オーバートン室長、ミヤキ氏が 協定調印式後に将軍山会館を見学、ご案内
	大阪経済大学にて「創立90周年記念展示会」を見学
10月 3日	2022年度博物館実習企画展の開催を開始
11日	インドのムケッシュ・パテル氏が将軍山会館を見学、ご案内
18日	福田氏（1992年グジャラート大学交換留学生）が来学 資料室閉室のため将軍山会館にて資料閲覧
19日	将軍山会館にて避難訓練

2022年度 室員・調査員

室 長	藤吉 圭二	（社会学部教授）
室 員	齊藤 一誠	（国際教養学部教授）
	瀧端 真理子	（心理学部教授）
	住谷 研	（追手門学院中・高等学校）
	小倉 久美子	（総務課）
室 員 （学舎協力者）	西村 啓子	（幼保連携型認定こども園 追手門学院幼稚園）
	竹下 貴	（追手門学院小学校）
	西浦 誠	（追手門学院大手前中・高等学校）
	谷川 譲二	（追手門学院中・高等学校）
調査員	横井 貞弘	（追手門学院大手前中・高等学校元教諭）
	武田 昌一	（近畿大学元教授）
	吉田 浩幸	（校友会副会長）

資料の寄贈・移管のお願い

学院志研究室では、追手門学院の歴史および学院関係者の事跡に関する資料を広く収集しています。

広報誌などの学内刊行物、記念品、写真、フィルム、学生生活に関わるものなど、学院に関する資料がございましたら、末尾までお気軽にご連絡ください。

編集後記

ニューズレター第15号をお届けします。記事にもある通り学院のデジタルアーカイブへのアクセスが堅実に増えています。校友会サイト、学院サイトの広報へのご協力に感謝申し上げます。また室員の瀧端先生（学芸員課程）がプラハ（チェコ）で開催のICOM2022大会に参加され、大学の博物館実習受講生による展示について報告されました。フロアからの質問などもあったようで、研究室活動が思わぬところでグローバルな反響を呼びました。SJとして研究室をサポートしてくれた学生諸君も業務の中で得たものがあるようです。今後とも学院志研究室の地道な活動へのご支援をお願いいたします。

（藤吉 圭二）

追手門学院大学 学院志研究室 News Letter 第15号

2022年12月26日発行

■お問い合わせ先■

〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15

072-665-5062（内線4405）

archives-g@otemon.ac.jp

バックナンバーはホームページでダウンロードしていただけます